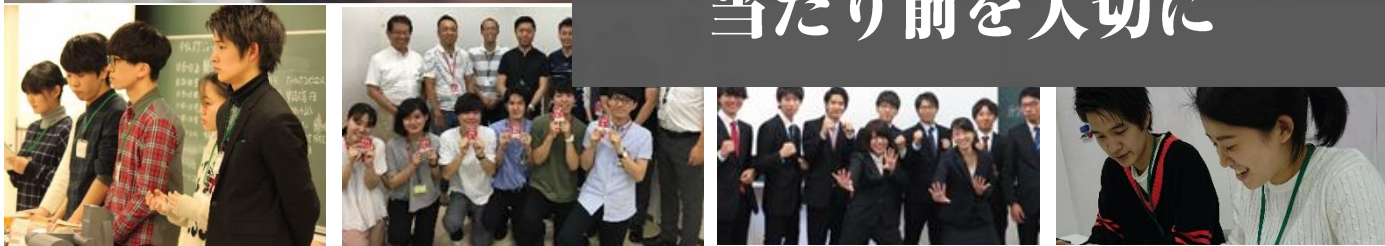




# 当たり前を大切に

2期生 (経営学部/経営学科)

## 渡邊 太貴



### 01 生まれと育ち

**苦悩の中から生まれた性格**

1995年4月14日に福井県の山に囲まれた病院の中で母親から命を授かった。小学校にあがるまでは、好奇心旺盛で両親や幼稚園の先生が目を見守った途端、ぶらぶら一人でどこかへ行ってしまう子だったと、母親は話している。小学校に入ってから、仲のよい友人の勧めより野球部に入部した。当時は、監督や両親から野球を教わり、何度も怒鳴られた記憶がある。その当時は、学校終わりに部屋に足を運ぶのが嫌で嫌で仕方がなく、監督に対して「自分が大きくなったら絶対に監督を殺してやる」と思うことが多々あった。それでも、他のチームメイトより野球がうまくなりたいたいと思い、練習時間以外でも素振りや父親とキャッチボールに取り組んでいた。野球は、中学生になっても熱中していた。小学校、中学校と野球部に入り、長時間野球に打ち込んだことがきっかけで、何か一つことに熱中して取り組むという性格が形成されていった。



### 02 大学生になってからのこと

**普遍的な大学生活からの脱出**

「学生寮に入ったほうが、友達もできる、

わからないことを先輩に聞くこともできるから1年間、学生寮に入らないか？」と両親から勧められて渋谷学生寮に入った。この学生寮に入ったことが、私の大学生活の始まりである。学生寮に入ってから、両親から聞いた通り、案の定すぐに友達もでき、授業も休むことなく、単位やサークルについてわからないことを先輩に聞くことができ、順風満帆な大学生活を送っていた。しかし、少しずつ大学生活に飽き始めていた自分がいた。というのも、「朝起きて、学校で授業を受けて、学生寮に戻る」。というサイクルで毎日過ごしていた自分がいたからである。つまり、同じサイクルの中に新しい刺激となることがほしいと思っていたのである。そんなことを思いながら、学生寮を退寮し、2年生になる時に履修ガイダンスで「むすびわざコーオププログラム 長期有給インターンシップ」というチラシを見て説明会に足を運んだ。この時私は、このまま大学で何もないうまま過ごすよりましかということとインターンシップという言葉にひかれて説明会に向かった。説明会で「自分を変えてみたいと思ったらぜひむすびわざへ来てください」。その言葉に「何をすることも行動するのが遅かった自分を変えたい」と思ったこととその時に出会った先生の何とも言えない面白さに惹かれ、私はむすびわざに入ることを決意した。自分から新しいことに挑戦したのは、これまで生きてきた中で初めてだったのかもしれない。

私がむすびわざに入る前は、インターンシップに行くことだけしか考えられていな

かった。そのため、むすびわざに入ってから1年間インターンシップに行くまでに事前学習に取り組みまないとけないということを知り、気持ちが一気に落胆してしまっ

た。その事前学習というのも、「論理的思考」や「プレゼン力を鍛える」「グループワーク」があり、学生が発言することが多々ある授業内容だった。そのため、私ほもともと、話すことが苦手だったためこれからの1年間が不安でいっぱいだった。さらに、「周りの人が発表しているから自分もしなければ」という気持ちになることが多く「やらされ感覚」で授業に取り組むことが多かった。



### 03 長期有給インターンシップ 仕事をすることを知らず

むすびわざに入ってから1年が経過し事前学習を経て、長期のインターンシップへ行った。勤務先は、誰もが耳にしたことがある株式会社ファーストリテイリングのユニクロである。インターンシップ中に感じたことがいくつもあったが、「一番私が感じたことがあった。それは、「仕事を任せられるためには、基本的な業務こそが仕事において重要だ」ということだった。というのも、インターンシップ中は、レジ・試着 室内内・清掃・商品整理しか行っていない。そのため、私は「同じ業務ばかりで仕事がつまらない」と感じることも多々あった。それは、ルーティン化された

ものが苦手で、通常業務にやりがいを感じることができなかったからだ。

だが、なぜ同じ業務ばかり取り組ませているのだろうかということを考えはじめた時に、仕事を任せられているアルバイトの方と自分を比較してみた。すると、「アルバイトの方は1つの仕事を徹底して取り組んでいた」ということに気が付くことができた。つまり、アルバイトの方は、基本業務ができてから他の仕事を任せられているのだということが分かった。しかし、私は、「仕事がつまらない」という自分の都合だけで他の仕事に取り組みたいと思っていた。そこで、私は自分が取り組める業務内でする限りのことをした。すると、最初は4つの業務にしか取り組めていなかったが、インターンシップ最終月には、約2倍の9つまで業務を習得することができた。自分ができる業務が増えたことにより、インターンシップの初めの月と比較すると、仕事へのモチベーションが上がり、仕事をすることが楽しいと思えるようになっていった。

### 04 大事にしたいこと 自分を動かす原動力となる言葉

「他人との差別化を図る」。これは、私がむすびわざとインターンシップに参加したことで感じたことだった。このむすびわざとインターン先に共通していることとしてどちらとも組織であるということだ。どちらの組織においても最初私は、特別目立つ存在ではなかった。さらに私は、組織に自分が埋もれてしまうことに嫌悪感を抱い

ていた。そのため、私は、どの環境下においても自分という存在をアピールするため他人との違いを見つけ、力を入れていくことにしている。例えば、インターンシップ先では、「笑顔でいること」に力を入れた。その理由として、自分の当たり前にしてきたことが周りから見ると当たり前ではなかったからだ。普段、何気なく笑顔でいることが多い私は、周りのスタッフから「いつもそんなにニコニコしてるな」や「憎たらしいほど笑顔やな」などと言われることが多くあった。その時、これこそ、勤務先で自分がアピールできる自分の良さということに気付くことができた。スタッフとの距離も縮まり自然と勤務中や休憩中に会話を増やすことができた。だからこそ、今後も「他人との差別化を図る」ということを大事にしていきたい。

### 05 これからのこと 「やってみよう」を大切に

「やってみよう」を大切に。むすびわざに入る前には、「できるかできないか」で判断していた。しかし、何かをやることで「自分はこんなこともできたんだ」という発見につながるがあった。「できないこと」に挑戦することが、自分の可能性を広げてくれる。これから就職活動が始まるうとしていくが、初めから「自分にはこれが合っていてこれは合っていないだろっ」と決めつけて行動するのはなく、「何か新しい発見ができるかもしれない」という興味という視点で行動してみようと思う。

<p><b>少年野球での苦悩</b></p> <p>9歳 小学校4年生の時に少年野球の練習。試合時に、失敗することが多く毎回監督から怒鳴られることがあった。今思えば、生まれてから初めての苦悩だった。</p>	<p><b>テニスに打ち込んだ</b></p> <p>16歳 高校からテニスを始めた。テニス上手い先輩へ憧れを抱いた。先輩に近づいたため必死に練習したのを今でも覚えている。この時、誰よりも強くなりたいたいという負けず嫌いな性格が、今も活かしている。</p>	<p><b>むすびわざコーオププログラムに参加</b></p> <p>20歳 大学で何もしていない自分に危機感を覚えた時に「むすびわざコーオププログラム」のチラシを手にし、説明会に足を運んだ。説明会で出会った先生の何とも言えない面白さに惹かれてむすびわざコーオププログラムに入ることを決意した。</p>
---	--	---

<p><b>先輩・後輩からのメッセージ</b></p> <p><b>三木 春澄 (1期生)</b></p> <p>むすびーのファッションリーダーってぐらいファッションが大好きな渡邊。そんな彼はむすびーでも努力家！褒めれば褒めるほど楽しそうに企画に取り組んでいる姿が印象的！</p>	<p><b>プロフィール</b></p> <p>1995年4月14日生まれ、福井県出身の渡邊太貴。「女性よりもご飯よりも服が好き」。この言葉の通り、服が好き。月に5万円ほど洋服につき込んでいる。一言で言うと、「田舎者のくせに、目立ちたがり屋」。</p> <p><b>尾川 諒 (3期生)</b></p> <p>渡邊さんは私たち3期生が壁にぶつかった時にさりげなく、それでいて的確にアドバイスを下さり、助けてくれます。また、いつもオシャレな格好をしていて、個性を前面に押し出している姿は憧れます。</p>
--	---